

日本語構文に動詞「理解する」「分かる」と「知る」
の類義語の用法分析

プレーヤー ベンチャニア ルマンダ
0642001



日本文学科
文学科学部
マラナタキリスト大学
バンドン
2010

日本語構文に動詞「理解する」「分かる」と「知る」 の類義語の用法分析

序論

意味論が、一つの言語の形態論、統語論と意味論は三つの部分のですが、文の中にあるの文法的意味と語彙的意味に含まれるの意味を学ぶ。語彙的意味は辞書と同じで、文法的意味は文章による変化する意味である。著者は動詞「知る」、「分かる」と「理解する」の文法的意味について説明することがある。それらの動詞は意味がほとんど同じで、だが会話の中で使用されることの違いが多いのであるが、はたしてこの三つの動詞を正しく使用できるだろうか。うまく使わなければミスコムにケーションになる可能性が高い。それでそれらの動詞は交換できるものなのか。それらは交換できるが、「知る」、「分かる」、と「理解する」の意味ニュアンスは異なる。

本論

文は統語論機能を分析して調査される。著者は、文章中の単語を分析し、構文の関数に属している。意味論ロールは、それらが文の中で果たす役割、与格者、受益者、経験者と利益者動作主格ことができる。文の内容の統語的主語の機能が役割、受益者格、経験者、または利益者することができる。著者は、統語

論の機能と動詞「知る」、「分かる」、「理解する」を含む文章の意味論ロールを分析する。

次の「知る」、「分かる」と「理解する」の動詞の意味的に見ると意味は異なる。「知る」は理解することは多くの情報は、話し手は自身の経験から取得していないため、少ないです。「分かる」がある知る以上の理解することです。また、まだ明らかに最後明らかになると言う意味である。「理解する」は、話し手は友人から得ることができる、自分自身の経験などがある。それらの三つの動詞の中で、「理解する」の知識が具体的であるため、この動詞の意味感情、性格などを理解をしている。話し手は相手と親密な関係があるため、話し手はそれらの動詞をあなたは本当に誰かを理解する必要がある場合に使用する。

「知る」の理解のレベルは「分かる」と「理解する」により少ないがある。パーセントに見る場合は「知る」がそのような情報の理解の50%を含む。「分かる」が75%と90%の理解するが情報の理解が含まれる。「理解する」は情報の理解レベル100%を使用しないことができる。情報は社会的にだからいつでも変化する、だから情報を100%を含むのは誰もいない。「知る」は話し手が情報を持つ人から情報を得る、でも情報の真実不明である場合に使用する。話し手は情報の真実を調査した後でその他に情報を通知する時に「分かる」を使用する。「理解する」は話し手が情報を持つ人と親密な関係がある時に使用してだから話し手は情報を持つ人の立場と感情を理解することができる。

結論

「知る」、「分かる」と「理解する」の動詞は様々な**状況で使用**されるだけでなく、**同じ状況で使用**することができる。「知る」、「分かる」と「理解する」は**交換**できるかもしれないが意味のニュアンスの違いがある。文章の中で「知る」、「分かる」と「理解する」はお**互い**すなわち**感覚が抽象的**生気のない状態の中で**理解置き換**えることはできなくつかの状態がある。**意味論**ロールは動詞「知る」、「分かる」と「理解する」を含む**動作主格、与格、受益者格、経験者、利益者**ことができます。「知る」、「分かる」と「理解する」を含む**文の意味論**ロールは主語、対象語の統語**機能を占**めることができる。

DAFTAR ISI

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| KATA PENGANTAR..... | v |
| DAFTAR ISI..... | viii |
| SINOPSIS..... | xi |
| BAB I PENDAHULUAN | |
| 1.1 Latar Belakang..... | 1 |
| 1.2 Rumusan Masalah..... | 4 |
| 1.3 Tujuan Penelitian..... | 5 |
| 1.4 Metode dan Teknik Kajian..... | 5 |
| 1.5 Organisasi Penulisan..... | 7 |
| BAB II TEORI DASAR <i>SHIRU</i> , <i>WAKARU</i> , DAN <i>RIKAI SURU</i> | |
| 2.1 Semantik..... | 9 |
| 2.2 <i>Ruigigo</i> | 10 |
| 2.3 <i>Doushi</i> | 12 |
| 2.3.1 <i>Shiru</i> | 12 |
| 2.3.2 <i>Wakaru</i> | 17 |
| 2.3.3 <i>Rikai suru</i> | 20 |
| BAB III ANALISIS KESINONIMAN VERBA <i>SHIRU</i> , <i>WAKARU</i> , DAN <i>RIKAI SURU</i> DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG | |
| 3.1 Analisis Verba <i>Shiru</i> | 24 |

| | |
|--------------------------------------------|------|
| 3.2 Analisis Verba <i>Wakaru</i> | 34 |
| 3.3 Analisis Verba <i>Rikai Suru</i> | 44 |
| | |
| BAB IV KESIMPULAN..... | 55 |
| DAFTAR PUSTAKA..... | xiv |
| LAMPIRAN DATA..... | xvi |
| RIWAYAT HIDUP..... | xxix |